

しろいくつ

広島県 広島市立日浦小学校 一年

久保田 彩煌

「ねえ、さきちゃん。くろいくつにしてくれない。
と、おかあさんがいいました。」

わたしは、入いがくするときに、白しろいくつをかってもらいました。だけど、白しろいくつは、一日いちにちはいただけで、よごれがわかってしまいます。うんどうかいの、れんしゅうがまい日にちあるので、まっくろになってしまいます。一年生いちねんせいで、白しろいくつは、わたし一人ひとりです。

でも、わたしは白しろいくつが、だいすきです。なぜかというと、あさ学校がっこうへいくとき、白しろいくつがきらきらひかっているのを見るのがだいすきだからです。はいているときもちがいいです。

それと、あさ、おかあさんとはなれるのはさみしいけれど、あらってもらった白しろいくつを見ると、おかあさんがついているとおもえて、ゆうきがでます。

「白しろいくつがすきなんよ。白しろいくつがいいんよ。」
と、わたしはへんじをしました。

おかあさんは、いきをはきながら

「ふうん。」

とだけ、いいました。

「あつ。」

月ようび学校へいこうとおもつてくつをはこうとすると、あらつてまっ白になつたくつが、げんかんにおいてあるのにきがつきました。わたしは、おかあさんのほうをむいて、

「ありがとう。」

といつて学校へいきました。

学校からかえつてくると、げんかんにもう一足、あたらしい白いくつがおいてありました。わたしは、そのくつを、みながら

「ただいま。」

というと、おかあさんが、

「おかえり。白いくつ、もう一足かちやつた。一つ大きいサイズなんだけどね。」

けさ、さきちゃん、しぜんと心から、『ありがとう。』つて、いつてくれたからおかあさんがんばつてくつあらうわ。」

と、すごくえがおでした。ちよつとびつくりしたけど、わたしもえがおになりました。

おかあさん、はいていてきもちいいよ。

ありがとう。